

ホリスティック企業レポート

チャットプラス

598A 東証グロース

新規上場会社フォローアップ・レポート
2026年8月21日発行

一般社団法人 証券リサーチセンター



証券リサーチセンター
審査委員会審査済 20260820

新規上場時の計画どおりの 26 年 6 月期決算

27 年 6 月期は前期比 12%増収、5%営業増益を計画

アナリスト: 高木 伸行 +81(0)3-6858-3216
レポートについてのお問い合わせはこちら info@stock-r.org

【598A チャットプラス 業種: 情報・通信業】

株価(8月20日): 1,360円 時価総額6,559百万円 発行済株式総数: 4,822,500株

決算期	売上高 (百万円)	前期比 (%)	営業利益 (百万円)	前期比 (%)	経常利益 (百万円)	前期比 (%)	純利益 (百万円)	前期比 (%)	EPS (円)	BPS (円)	配当金 (円)
2025/6	1,021	36.3	369	2.3×	369	2.3×	246	2.3×	61.5	104.7	3.0
2026/6 実	1,221	19.6	529	43.4	524	42.0	346	40.7	86.7	188.3	3.0
予	1,222	19.7	500	35.5	492	33.3	322	30.9	80.5	-	3.0
2027/6 予	1,369	12.1	556	5.1	556	6.1	359	3.8	75.1		9.0

(注) 1.単体ベース

2.2025年12月8日付けで1:200の株式分割を実施。1株当たり指標は遡って修正

3.予想は会社予想

> 事業内容

(注1)チャット(会話)とボット(ロボット)を組み合わせた言葉で、ユーザーからの質問に自動で返答してくれるプログラム

(注2)Frequently Asked Questionsの略で、頻繁に尋ねられる質問のこと。顧客または社内からの商品やサービス、業務に関する質問をまとめてデータベース化し、検索できるようにしたシステムを「FAQシステム」と呼ぶ

◆ 問合せ対応を自動化するチャットボットシステムを提供

チャットプラス(以下、同社)は、人により行っていた社内外からの問合せ対応を自動化・省人化するチャットボット^{注1}システムである「ChatPlus」、問い合わせ内容を AI が理解し回答するとともに運用管理の負担も AI により削減するチャットボットシステムである「AI AgentPlus」を提供している。また、よくある質問・回答の記事を作成・整理・管理し、利用者が迷わず答えにたどり着けるようにする AI で自動化した FAQ^{注2}システム「FAQPlus」の開発・提供も行っている。

26/6 期の売上高の 98.2%をチャットボットシステム及び FAQ システムが、1.8%をその他が占めた。その他は Web メディア運営会社向けの星占いや心理テストといったコンテンツの配信サービスである。販売については直販を基本としている。

同社のサービスは SaaS 形式で提供され、チャットボットと FAQ の両システムの月額/年額課金によるストック型収益が 26/6 期売上高の 95.9%を占めており、安定性の高いビジネスモデルとなっている。フロー型の収益は、顧客の要望に基づく追加機能開発や初期設定作業に対する対価で構成されている。

◆ チャットボットシステム～ChatPlus/AI AgentPlus～

チャットボットは顧客問合せ対応、店舗や拠点支援、社内ヘルプデスクといった目的で活用されている。実用例としては、ネットショップにおいて商品の選び方相談、在庫確認、配送状況の案内などをチャットボットが担っている。また、大企業において総務・人事・IT への「社内問い合わせ窓口」として利用されたり、小売・サービス業では本部への問い合わせをチャットボットに集約したりしている。

チャットボットの導入は単なるコスト削減や業務の効率化だけではなく、顧客満足度の向上、見込み客の獲得、マーケティングデータの蓄積、Web サイトや EC サイトにおいて訪問者を適切な情報に誘導するといったマーケティング支援ツールとしても活用されている。

同社の ChatPlus は業種業態や企業規模を問わない柔軟なプラン構成、価格や契約期間面でのハードルの低さに加え、有人チャット、シナリオ型チャットボット、自社開発 AI を活用したフリーワード型チャットボットといった多様な機能を備えている点が特徴である。

AI AgentPlus は成長サービスに位置付けられている。ChatPlus に自社開発 AI を搭載するとともに ChatGPT 等の生成 AI を連携し、登録された回答に加えて、その場で最適な回答用の文章を生成することで、複雑な問合せに対して、自然な応対を実現するチャットボットである。

自社開発 AI は顧客企業の登録データの中から質問内容と意味が近い情報を探索し、その情報に基づき連携する生成 AI が回答を生成する仕組みを採用している。回答については登録データに限定し、不明な内容については回答を行わないことで誤回答の発生を防いでいる。

◆ FAQ システム～FAQPlus～

FAQPlus は、AI がマニュアル等を基にウェブサイトなどに掲載する FAQ を自動作成し、ユーザーが自分で疑問を検索して解決できるようにするツールである。FAQ の記事作成に加えて、品質管理、解決率改善も行ってくれる。

◆ 主要経営指標

SaaS 形態でサービスを提供していることから、同社は ARR^{注3}を重視している。また、ARR は利用単価に加えて顧客アカウント数や解約率を表す Churn レートの影響を受ける。

ARR をサービス別で見ると、ChatPlus については 26/6 期第 1 四半期をピークに低下傾向にある。一方、同社が成長サービスとして注力している AI AgentPlus は順調に増加している(図表 1)。

(注 3) 年間経常収益のことで、Annual Recurring Revenue の略。契約に基づいて得られる年間収益の合計。
「月額利用料金×12」で算出

【 図表 1 】 ARR/アカウント数/ARPA/Churn レート

	24/6期				25/6期				26/6期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
ARR (百万円)												
ChatPlus	557	599	620	634	660	676	689	707	719	677	661	637
AI AgentPlus	85	93	124	144	193	265	313	346	417	462	498	534
FAQPlus	2	2	7	9	9	14	19	24	28	31	38	42
合計	645	695	751	788	864	956	1,022	1,077	1,165	1,171	1,198	1,214
アカウント数 (件)												
ChatPlus	2,199	2,218	2,229	2,204	2,227	2,230	2,170	2,182	2,172	2,128	2,037	1,991
AI AgentPlus	44	48	63	70	84	108	128	136	161	175	197	211
FAQPlus	1	1	3	4	4	6	8	10	12	12	15	18
合計	2,244	2,267	2,295	2,278	2,315	2,344	2,306	2,328	2,345	2,315	2,249	2,220
ARPA (千円)												
ChatPlus	253	270	278	287	296	303	317	324	331	318	325	320
AI AgentPlus	1,936	1,951	1,977	2,069	2,306	2,457	2,452	2,549	2,592	2,643	2,528	2,533
FAQPlus	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,600	2,604	2,360
平均	287	306	327	346	373	408	443	463	496	505	532	547
Churnレート (%)	-	2.0	2.0	2.1	2.0	1.8	1.9	1.8	1.8	1.8	1.9	2.1

(注) 1.ARR は年間経常収益のことで、各期末月の月額利用料金の合計×12 で算出
2.Churn レートは四半期最終月の直近 12 カ月の平均月次 Churn レート
月次 Churn レート＝当月解約数÷(前月アカウント数合計＋当月新規契約件数)
3.ARPA はアカウント当たりの年間収益。ARPA＝ARR÷アカウント数
(出所) 届出目論見書、決算短信を基に証券リサーチセンター作成

> 業績

◆ 26 年 6 月期決算概要

26/6 期実績は、売上高 1,221 百万円(前期比 19.6%増)、営業利益 529 百万円(同 43.4%増)、経常利益 524 百万円(同 42.0%増)、当期純利益 346 百万円(同 40.7%増)であった(図表 2)。7 月の新規上場時に公表された計画に対しては、売上高は計画どおり、各段階利益は計画を上回った。限界利益率が高い同社の収益構造の特徴が表れた決算であった。

チャットボットシステムと FAQ システムのストック型収益は全体の売上高の 95.9% を占め、25/6 期の 93.8%から 2.1%ポイント上昇した。大幅な増収となるなかで安定収益の構成比が上昇した。

全体のアカウント数は ChatPlus のアカウント数の減少の影響を受けて頭打ちだが、1 アカウント当たりの年間収益が ChatPlus を大きく上回る AI AgentPlus や FAQPlus のアカウント数が増加していることから、全社ベースの ARR は順調に拡大した。

【図表 2】26 年 6 月期実績

	25/6期		26/6期			
			実績		会社計画	
	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)
売上高	1,021	100.0	1,221	100.0	1,222	100.0
売上原価	263	25.8	303	24.8	318	26.0
売上総利益	758	74.2	917	75.1	904	74.0
販売費及び一般管理費	388	38.0	387	31.7	404	33.1
営業利益	369	36.1	529	43.3	500	40.9
営業外収支	0	-	-4	-	-8	-
経常利益	369	36.1	524	42.9	492	40.3
税引前当期純利益	369	36.1	524	42.9	492	40.3
当期純利益	246	24.1	346	28.3	322	26.4

(注) 端数処理の関係で各数値の和が合計と一致しない場合がある
(出所) 「東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」、決算短信を
基に証券リサーチセンター作成

◆ 27 年 6 月期計画

同社の 27/6 期計画は、売上高 1,369 百万円(前期比 12.1%増)、営業利益 556 百万円(同 5.1%増)、経常利益 556 百万円(同 6.1%増)、当期純利益 359 百万円(同 3.8%増)である(図表 3)。26/6 期に比べて増益率が低下するのは、人件費、広告宣伝費、地代家賃等の増加を織り込んでいるためである。

【図表 3】27 年 6 月期会社計画

	26/6期		27/6期		
	売上高	構成比	売上高	構成比	前期比
	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(%)
売上高	1,221	100.0	1,369	100.0	12.1
売上総利益	917	75.1	1,016	74.2	10.8
営業利益	529	43.3	556	40.6	5.1
経常利益	524	42.9	556	40.6	6.1
当期純利益	346	28.3	359	26.2	3.8

(出所) 決算説明資料を基に証券リサーチセンター作成

27/6 期においても、新規顧客獲得、顧客価値の向上(解約率の低減)、顧客単価(ARPA)向上を通して ARR の拡大を図る方針である。27/6 期の施策としては 3 つを挙げている。

第 1 に成長サービスである AI AgentPlus の機能拡充による新規獲得とアップセルである。AI AgentPlus Pro を 8 月 13 日にリリースし、新規開拓とともに AI AgentPlus や ChatPlus のアカウントに対してのアップセルを強化する考えである。

AI AgentPlus Pro は Salesforce、kintone、Slack 等と連携し、CRM 更新、通知、メール送信等の業務処理を自動化するサービスである。今後も AI AgentPlus の新規獲得を進める計画であるが、今まで注力してきた結果、既存顧客も増えてきたため、既存顧客に対してのアップセルにも注力する方針である。

第 2 にコンサルティング、システム構築、開発といった伴走型プロフェッショナルサービスや FAQPlus をクロスセルすることにより 1 社当たりの拡大を図る考えである。

第 3 にコンサルティング、システム構築、開発といった伴走型プロフェッショナルサービスの推進、営業施策の強化、カスタマーサクセス強化といった施策により新規獲得と解約率の低下を目指すとしている。

> 成長戦略

◆ 成長戦略

中長期的な成長に向けては、同社は①新規獲得、解約率低減、単価向上によるARRの持続的成長、②チャットボットシステム周辺領域での新規事業開発という施策を念頭においている。

ARR の持続的成長に向けては、AI AgentPlus Pro のリリースに示されるような AI AgentPlus の機能拡充による新規獲得、FAQPlus の推進、AXソリューションの強化、営業施策の強化、カスタマーサクセス推進によるアップセルやクロスセルの提言や継続率の向上といった一連の施策を実行する考えである。

チャットボットシステム周辺領域での新規事業開発については「営業支援・マーケティング」や「カスタマーサクセス」に関する新規事業の開発を考えている。この取り組みについては 28/6 期下期以降から強化してゆく考えを示している。

新規上場による調達資金は、機能強化・機能追加開発・新技術の研究開発、人材投資、販売促進活動に充当する計画である(図表 4)。

【図表 4】新規上場時の調達資金の使途

	27/6期	28/6期	29/6期以降	合計
	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(百万円)
機能強化・機能追加開発・新技術の研究開発	65	65	200	330
人材投資	35	70	120	225
販売促進活動	60	60	130	250
合計	160	195	450	805

(出所)訂正届出目論見書を基に証券リサーチセンター作成

＞ 経営課題/リスク

◆ 投資に際しての留意点

同社の新規上場に際して、証券リサーチセンターでは、①技術革新や顧客ニーズの変化のスピードに取り残されるリスク、②同社のサービスの運営基盤である AWS の障害に起因する同社サービスの信頼の低下や Amazon Web Services による経営戦略の変更による同社業績への影響、③同社が利用している ChatGPT に障害が発生した場合や OpenAI の経営戦略の変更による同社の業績への影響、④26/6 期末において業務執行に携わる役員 3 名及び従業員 22 名という小規模組織であること等を投資に際しての留意点として挙げたが、変更はない。

本レポートでは、チャットプラス株式会社の、26 年 7 月の新規上場以降の業績動向と成長戦略の進捗状況を中心にアップデートしております。同社の事業概要や市場環境などの基礎情報につきましては、併せて発行済みの下記レポートをご参照ください。

「新規上場会社紹介レポート チャットプラス (598A 東証グロース)」

(2026 年 7 月 17 日発行)

[チャットプラス \(598A\) のアナリストレポート \(IR、株、IPO\) | 証券リサーチセンター](#)

【 図表 5 】 財務諸表

損益計算書	2024/6		2025/6		2026/6	
	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)
売上高	749	100.0	1,021	100.0	1,221	100.0
売上原価	150	20.0	263	25.8	303	24.8
売上総利益	599	80.0	758	74.2	917	75.1
販売費及び一般管理費	437	58.3	388	38.0	387	31.7
営業利益	161	21.5	369	36.1	529	43.3
営業外収益	2	-	1	-	2	-
営業外費用	2	-	1	-	7	-
経常利益	162	21.6	369	36.1	524	42.9
税引前当期純利益	145	19.4	369	36.1	524	42.9
当期純利益	105	14.0	246	24.1	346	28.3

貸借対照表	2024/6		2025/6		2026/6	
	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)
流動資産	432	68.0	762	80.0	1,116	84.7
現金及び預金	374	58.9	689	72.3	1,030	78.1
売掛金及び契約資産	33	5.2	49	5.1	61	4.6
棚卸資産	1	0.2	0	0.0	0	0.0
固定資産	203	32.0	191	20.0	201	15.3
有形固定資産	65	10.2	60	6.3	56	4.2
無形固定資産	38	6.0	32	3.4	52	3.9
投資その他の資産	98	15.4	98	10.3	92	7.0
総資産	635	100.0	953	100.0	1,318	100.0
流動負債	312	49.1	462	48.5	507	38.5
買掛金	25	3.9	28	2.9	31	2.4
短期借入金	-	-	14	1.5	14	1.1
1年内返済予定の長期借入金	47	7.4	26	2.7	15	1.1
固定負債	138	21.7	72	7.6	57	4.3
長期借入金	92	14.5	25	2.6	9	0.7
純資産	184	29.0	418	43.9	753	57.1
自己資本	184	29.0	418	43.9	753	57.1

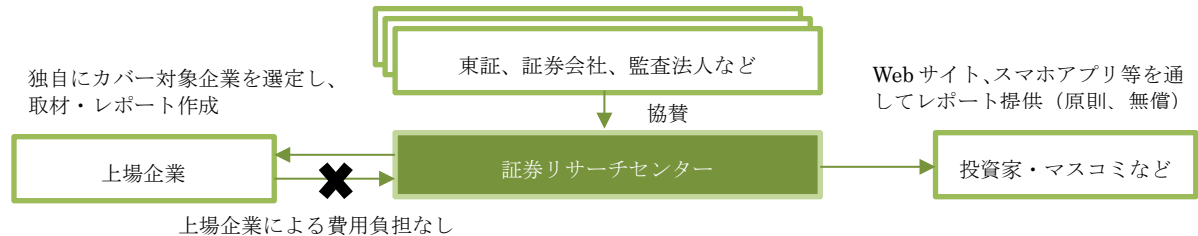
キャッシュ・フロー計算書	2024/6	2025/6	2026/6
	(百万円)	(百万円)	(百万円)
営業キャッシュ・フロー	199	409	415
減価償却費	40	21	18
投資キャッシュ・フロー	-101	-10	-35
財務キャッシュ・フロー	45	-85	-38
配当金の支払額	-	-12	-12
現金及び現金同等物の増減額	143	314	341
現金及び現金同等物の期末残高	374	689	1,030

(出所) 届出目論見書、決算短信を基に証券リサーチセンター作成

証券リサーチセンターについて

証券リサーチセンターは、株式市場の活性化に向けて、中立的な立場から、アナリスト・カバーが不十分な企業を中心にアナリスト・レポートを作成し、広く一般にレポートを公開する活動を展開しております。

※当センターのレポートは経済産業省の「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス」を参照しています。



■協賛会員

株式会社東京証券取引所	S M B C 日興証券株式会社	大和証券株式会社	野村證券株式会社
みずほ証券株式会社	EY 新日本有限責任監査法人	有限責任あずさ監査法人	株式会社 I C M G
太陽有限責任監査法人	有限責任監査法人トーマツ	株式会社 S B I 証券	三優監査法人
PwC Japan 有限責任監査法人	いちよし証券株式会社	監査法人 A&A パートナーズ	仰星監査法人
宝印刷株式会社	株式会社プロネクサス		
日本証券業協会	公益社団法人日本証券アナリスト協会		

■後援

株式会社名古屋証券取引所	証券会員制法人札幌証券取引所	証券会員制法人福岡証券取引所
一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会	一般社団法人日本 IR 協議会	
一般社団法人スチュワードシップ研究会	一般社団法人機関投資家協働対話フォーラム	

アナリストによる証明

本レポートに記載されたアナリストは、本レポートに記載された内容が、ここで議論された全ての証券や発行企業に対するアナリスト個人の見解を正確に反映していることを表明します。また本レポートの執筆にあたり、アナリストの報酬が、直接的あるいは間接的にこのレポートで示した見解によって、現在、過去、未来にわたって一切の影響を受けないことを保証いたします。

免責事項

- ・本レポートは、一般社団法人 証券リサーチセンターに所属する証券アナリストが、広く投資家に株式投資の参考情報として閲覧されることを目的として作成したものであり、特定の証券又は金融商品の売買の推奨、勧誘を目的としたものではありません。
- ・本レポートの内容・記述は、一般に入手可能な公開情報に基づき、アナリストの取材により必要な補充を加え作成されたものです。本レポートの作成者は、インサイダー情報の使用はもとより、当該情報を入手することも禁じられています。本レポートに含まれる情報は、正確かつ信頼できると考えられていますが、その正確性が客観的に検証されているものではありません。また、本レポートは投資家が必要とする全ての情報を含むことを意図したものではありません。
- ・本レポートに含まれる情報は、金融市場や経済環境の変化等のために、最新のものではなくなる可能性があります。本レポート内で直接又は間接的に取り上げられている株式は、株価の変動や発行体の経営・財務状況の変化、金利・為替の変動等の要因により、投資元本を割り込むリスクがあります。過去のパフォーマンスは将来のパフォーマンスを示唆し、または保証するものではありません。
- ・本レポート内で示す見解は予告なしに変更されることがあり、一般社団法人 証券リサーチセンターは、本レポート内に含まれる情報及び見解を更新する義務を負うものではありません。
- ・一般社団法人 証券リサーチセンターは、投資家が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても一切責任を負いません。最終投資判断は投資家個人においてなされなければならない、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家にあります。
- ・本レポートの著作権は一般社団法人 証券リサーチセンターに帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。